てんてん新聞

'11.1.No164
発行 市岡昭
責任
0883-88-5292

新しい年がスタートしました。寝ている間に新年となったので、特別な事もなく、昨日の続きとして朝を迎えて、テレビにスイッチを入れると、新年だと騒いでいるので、そうかあ、新しい年のスタートかと、ちょっとだけ考えただけ。

新年というより、起きて、外を見て、雪が降ってなければよかったと感じた元が印象的。

そんなと言うのも、気象予報士さん達が、「年末始は荒れる」「四国の平野部でも」なんて注意されたのでその気になって、これじゃご来迎も見えないと安心して寝てました。

七時すぎに目覚めてみれば、なんと新年に青空が……。

元旦の事で、早くもスタートで、つまずいてしまいましたが、そんな事、どうでもいいじゃないですか。

新年だ、ご来迎だと言うても、あと何百日もあるじゃありませんか。

という事で、早々、冬眠へと……。

でもネー、年金なんでしょうか、そんなに長時間寝れません。フトンの中で目覚めると、あれこれ考えはじめて、ますます、頭が冴えてくるので困りました。

そこで気がついた一句。

「景観やエコを語れば 金になり」 季語なし関係あります。

とか言う人が多くなったような。

そんな人に限って、普段エコなんて生活はしてる様子でもない、景観ことか、観光ことか、景観を考えて、あるいは気にして物事を決めているとも思えない。お金になればやっている。お金になるから動いている様子。

だから、自分でこんな一句をおもいつき悦に入ってる自分がいて。

まあ、同類かな。

今年こそは、なんとかしたい、この現実 なんてのも口に出して、一日一日を大切に、ボーッとして(笑)春を迎えたいもんです。

ひと年に、兎の話をしてみます。

鹿が増えてるのは、確かなんでしょう。くかと、祖谷に八千人もの人が暮らしていた時代、それも数十年前の事、その頃は、鹿や猪なんて、祖谷にいるなんて、ほとんどの人が知りませんでした。

猿だって、ほとんど見かけませんでしたが、今では毎日です。

兎だってそうです。 夜、車で走ると、前をピョンピョン走ります。

ここ二、三年よく見かけるようになりました。

植林をはじめた頃、杉の芽を喰われるという事で、キツネを入れたという話を聞きました。だから、一時期、大変少なくなっていたようです。 それが、ちゃんと生きていたのです。人間の考えとは関係なく、生きる為だけに、草木を喰っていただけですが、ちゃんと生きていたのです。

今では、時々交通事故にあったり、家の庭まで来てしまって、つないである犬にまで食べられる程に増えてるようです。

まあ、生きてる物は、食料がいっぱいあれば、子育ても安心して励めるのが増えてあたり前。

エサや気象、条件で左右されるのは自然なこと。困るというのは人間だけ。

そんな時、茨木のりこさんの詩に出合いました。

自分の事、言われてるようで反省しきりです。

田舎で幸せにならすには、

あれが欲しい、これが欲しい

とか、何がない

不便だとか

考えないこと

だと気付かされました。

新年早々、反省きり、です。

今年もよろしく

～時代おくれ～

茨木のり子

車がない
ワープロがない
ビデオデッキがない
ファックスがない
パソコン、インターネット
見たこともない

けれど
格別 支障もない

そんなに情報集めてどうするの
そんなに急いで何をするの
頭はからっぽのまま